

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉱業振興費

事業名 モノづくり教育プラザ推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 航空宇宙産業課 産業振興係 電話番号：058-272-1111 (内 2939)

E-mail : c11354@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 7,370千円 (前年度予算額：7,370千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	7,370	3,670	0	0	0	0	0	0	3,700
要求額	7,370	3,670	0	0	0	0	0	0	3,700
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・航空宇宙産業では、専門的な知識や技能が必要であり、次世代の航空機産業を担う若手技能者の育成・確保が課題となっている。
- ・産業界からは、即戦力として期待する高校生に対して企業現場の業務に繋がる基礎的な知識と技術の育成に期待が寄せられている。
- ・岐阜工業高校は、平成28年4月に文部科学省のスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール (SPH) に指定され、これを契機に航空宇宙産業教育を加速化させ、航空宇宙産業界への人材輩出に注力している。
- ・産業界のニーズに応え、また同校の産業教育を支援するため、平成28年度に航空機製造 (切削、組立) に係る基本的な技術習得に向けた実習施設モノづくり教育プラザ (一期) を岐阜工業高校敷地内に整備し、平成29年度4月から運用を開始した。
- ・平成30年度に航空機部品の設計・加工・検査・航空機構造を学ぶための実習施設モノづくり教育プラザ (二期) を岐阜工業高校敷地内に整備し、平成31年度4月から運用を開始した。

(2) 事業内容

平成 27～令和元年度に開催した「航空宇宙産業人材育成意見交換会」の意見等を踏まえ、モノづくり教育プラザにおいて、産業界が望む実践型・現場対応型の実習を実施する。なお、航空機製造技術体験研修及び航空宇宙産業 C A D・C A M 体験研修は、広く県内高校生を対象に実施する。

・航空機製造技術体験研修

【規模】 高校生 12 名×合計 3 回（① 3 日間×2 回、② 2 日間×1 回）

【内容】 ① 県内の工業系高校 3 年生を主な対象に、航空機製造に必要な知識の習得や、製造に必要な技術の体験研修を実施する。

② 工業系高校 1・2 年生と非工業系高校（普通科高校や商業高校等）の生徒を対象に、航空機産業への興味喚起を目的とした体験研修を実施する。

・航空宇宙産業 C A D・C A M 体験研修

【規模】 高校生 10 名×3 回（各回 3 日間）

【内容】 県内の高校生を対象に、航空機部品等の設計・製造に必要な C A D・C A M の体験研修を実施する。

・航空機製造工程実習

【規模】 高校生 1 年間 29 日

【内容】 航空宇宙産業への就職を希望する岐阜工業高校生を対象に、熟練技能者の指導の下、航空機製造で行われている一連の工程（設計、製造および検査）を学ぶ実践的な実習を実施する。

(3) 県負担・補助率の考え方

・県内の航空宇宙産業は、国際戦略総合特区指定区域 23 市町に拡大し、県の「成長・雇用戦略」において製造品出荷額倍増プロジェクトを実施中。このような背景の下、将来の航空機産業を担う技術者・技能者の育成・確保の取組を推進する。

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額（千円）	事業内容の詳細
報償費	108	講師謝金
旅費	30	業務旅費
消耗品	1,634	実習用材料、受講生用安全具
委託料	5,548	研修委託料
賃借料	50	遠方研修者宿泊用布団 ※校舎内で宿泊
合計	7,370	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・長期構想

- Ⅱ－1 モノをつくって、地域外からお金を稼ぐ地域をつくる

- ・航空宇宙産業を中核的産業に成長させる。

- ・岐阜県成長・雇用戦略

- 7－(1) 航空宇宙分野

- ③ 関係者からの意見及び課題

- <人材育成>

- 民間旅客機の生産拡大もあり、中小企業も含めて人材が不足する見込み。特に高い技術力・品質保証能力を求められる航空宇宙産業では優れた人材が必要。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業目標と成果

（事業の目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

航空宇宙関連産業への就職を希望する高校生の技術・技能の質的向上を図り、県内企業が望む人材を輩出する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
航空機関連企業 内定者数（工業 高校生）【単年】	71 (H27)	(H)	69 (H30)	64 (R1)	90 (R3)	71.1%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

- 航空機製造技術体験研修
 - ・コロナウィルス感染症の影響により中止
- 航空宇宙産業CAD・CAM体験研修
 - ・コロナウィルス感染症の影響により中止
- 航空機製造工程実習
 - ・開催期間 令和2年4月～令和3年1月
 - ・参加者数 6名（岐阜工業高校生）

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

航空機部品の製作実習を通じて、航空機製造の一連の行程（設計→切削→組立→検査）を学ぶ機会を提供することで、航空機の製造に係る知識と技術力が向上した。就業直後から即戦力として活躍することが期待される。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い</p>	
（評価） ○	<p>県内の航空宇宙産業は、国際戦略総合特区「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター」において、23市町が区域指定を受けており、また「県成長・雇用戦略」において、同産業は成長分野と位置付けられている。人材の育成・確保は産業界が抱かえる喫緊の課題であるため、継続的に事業実施していく必要がある。</p>
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない</p>	
（評価） ○	<p>昨年度の事業終了後のアンケート結果では、「航空機を製造する知識が身についた良かった。就職してから役に立つと思う。」等、やりがいがあったとの意見が多くあり、技術・技能の質的向上や就業意識の向上を図る点で一定の効果が得られている。</p>
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある</p>	
（評価） ○	<p>本事業は、県内の高校生に県内航空宇宙関連企業による協力の下で航空機製造体験の機会を提供しており、就職前にモノづくりの理解度を図る点で効率的かつ効果的な内容となっている。</p>

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 航空宇宙産業の人材育成・確保は喫緊の課題であり、産業界のニーズに合致した即戦力人材が輩出できる施策を引き続き講じる必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県内企業および学校関係者を交えた意見交換会や聞き取り調査結果を踏まえ、体験研修の対象を非工業系の高校生に広げて実施する。 岐阜工業高校は引き続き航空宇宙産業教育の中核拠点校として、航空宇宙をはじめとするものづくり教育の実習施設となるよう県内企業、学術機関などと連携し人材育成教育プログラムの充実と施設の効果的な活用を検討する。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	